

# 栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

## 中学校・国語科 vol.3

平成 18 年 1 月 栃木県総合教育センター

平成 16 年度教育課程実施状況調査(中学校第 2 学年段階の内容)のペーパーテスト調査結果から、今回は、「話す力・聞く力」を高めるためのプランを示します。

### ペーパーテスト調査結果からみえた成果( )と課題( )

「話の内容を正確に聞き取る」問題の通過率は、9 割を超えています。  
一方、放送された話の内容を正確に聞き取り、「話し手の説明の仕方の特色を考える」問題や、聞き取ったことをもとに、「自分の考えと理由を明確に示して述べる」問題の通過率は、7 割程度にとどまっています。

### 「話し手として必要な情報は何か」を吟味させましょう

「聞く力」をみる問題(5 問)の通過率の平均(83.7%)は、8 割を上回っています。その中でも、「話の内容を正確に聞き取る」問題の通過率は、次の例のように、9 割を超えています。

#### 通過率が 9 割を超えた問題例

(問題の原文は縦書き。以下同じ。)

本県の通過率	90.0%	全国の通過率	89.8%	差	0.2%
無解答率	0.5%	無解答率	0.5%		0.0%

- \* 領域・事項：「話すこと・聞くこと」
- \* 学習指導要領の内容：A(1)イ
- \* 出題のねらい：話の中心点を的確に聞き取る。

今の放送で聞き取ったことをもとに、あとの問いに答えなさい。

- 一 日本の若者の活字離れの原因としてどのようなことがあげられていましたか。次の 1 から 4 のうち、最も適切なものを一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。
- 1 日本の若者の活字離れの原因は、テレビを見過ぎることである。
  - 2 日本の若者の活字離れの原因は、長期休暇が<sup>きゅうか</sup>少ないことである。
  - 3 日本の若者の活字離れの原因は、受験に追われて時間的にも精神的にも余裕のないことである。
  - 4 日本の若者の活字離れの原因は、本の値段が高く、手軽に手に入らないことである。

(正答)  3

一方、放送された話の内容を正確に聞き取り、「話し手の説明の仕方の特色を考える」問題の通過率は、次の例のように、7 割程度にとどまっています。

### 通過率が7割程度の問題例

本県の通過率	71.5%	全国の通過率	73.1%	差	-1.6%
無解答率	0.3%	無解答率	0.5%		0.2%

\* 領域・事項：「話すこと・聞くこと」

\* 学習指導要領の内容：A(1)ウ

\* 出題のねらい：文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して聞き取る。

今の放送で聞き取ったことをもとに、あとの問いに答えなさい。

二 小林さんの説明の仕方には、どのような特色がありますか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。

- 1 難しい言葉をやさしい言葉に言いかえて説明している。
- 2 伝えたい部分を強調するため、くり返し説明している。
- 3 専門家の意見を参考にし、分かりやすく説明している。
- 4 質問したり、質問に答えたりする形式で説明している。

(正答)  4

このように、話の内容を正確に聞き取るだけでなく、聞き取った内容の質を吟味したり、聞き取った内容を踏まえて、自分の考えを明確にして話したりすることについては、指導の工夫が望まれます。とりわけ、聞き取った内容を踏まえて話す場合は、聞き取った内容について相手に確認を求めたりしながら、そこに自分の感想なり意見なりを添えていくようにするなどの工夫が必要です。

すなわち、これから「話そうとしている内容」が、すでに「聞き取った内容」と離れないように、「話し手として必要な情報は何か」を吟味して話すことが大切です。以下に、指導の充実を図るためのプランを示しますので、ぜひ参考にしてください。

### 1 「学習活動例」を有効に活用しましょう

ほとんどの教科書教材には、生徒が課題に取り組むにあたっての参考として、学習活動例が示されています。例えば、「立場を決めて討論しよう」(東京書籍2年生)では、「和食と洋食ではどちらがよいか」という論題について討論をしている、会話形式の学習活動例が示されています。それをもとに、生徒は、「どのように討論すればよいのか」について具体的なイメージをつくり、そのうえで、次の課題に取り組むようになっていきます。

課題 学習した方法に従って、「討論ゲーム」をしてみよう。

- [ 論題例 ] 手紙は、手で書くのとワープロを使うのとでは、どちらがいいか。  
日本語には、縦書きと横書きのどちらが適しているか。  
伝達方法として、電話と手紙とではどちらが優れているか。  
部活動は、勝利を第一に目指すべきだ。  
家庭から出すごみは、有料にするべきだ。

この課題の指示は、「学習した方法に従って」というのですから、まずは、学習活動例を

しっかりと読み、「討論ゲーム」の手順や準備の仕方、立論のつくり方、実際の発言の仕方などをよく理解するわけです。ところが、そういった地味な学習にはあまり時間をかけず、～の課題から選んで、「『討論ゲーム』をしてみよう」という部分に多くの時間を充てる傾向がみられます。これは、課題に取り組ませる時間を十分に確保したいという意識が指導者にはたらくからにほかなりません。しかし、学習活動例を読み解くという地味な学習には、「話すこと・聞くこと」の指導で身に付けさせたい、大切なことが含まれているのです。例えば、「和食と洋食ではどちらがよいか」の学習活動例を教科書の説明に照らして生徒に吟味させると、次のような、「課題に取り組む前に考えておく必要があること」がよく理解されてくるはずで

課題に取り組む前に考えておく必要があること

(教科書P117「『討論ゲーム』の準備」をもとに作成したもの)

自分たちの主張の正しさを証明できるような根拠を集めておく。

反論を予測し、それに対する答えを考えておく。

強力な反論が予想される場合は、立論を変更する。

メンバーがどの部分を担当するかを決め、必ず全員が発言する。

立論の要点は、箇条書きにして貼っておく。(そうすることで、聞き手の理解を促すとともに、メンバーの考えがぶれないようにする。)

このようなポイントの一つ一つについて、学習活動例では具体的にどのように行われているかをじっくりと考え、その理解を十分に図ってから課題に取り組むようにすることが大切です。学習活動例には、教材の「指導のねらい」や「指導のポイント」、学習指導要領の「指導事項」などの大切な要素が、具体的な言語レベルで示されているからです。以下に、学習活動例を効果的に活用するうえでの留意点について、具体的に述べます。

#### 学習活動例を繰り返し音読させましょう

「討論を楽しもう」(東京書籍1年生)の学習活動例では、6人の生徒による討論の場面が展開されています。生徒はそれをモデルとして自分たちの学習活動をイメージすることになりますので、教師が演技力を発揮して範読するとともに、生徒にも繰り返し音読をさせるようにしたいものです。繰り返して読むことにより、このあとに行う自分たちの学習活動をどのように展開すればいいのかについて、具体的なイメージをもつことができるようになります。シナリオ形式で書かれている場合は、役割分担をして読ませるとよいでしょう。何度も読むことにより、「話すこと・聞くこと」の「型」が身に付いてきます。これは、とりわけ、入門期(1年生)の指導において心がけたいことです。

#### 学習にあたっての「留意点」について考えさせましょう

また、学習活動例には、学習にあたっての「留意点」が添えられています。「討論を楽しもう」の場合は、次のように示されています。

学習にあたっての「留意点」の例～「討論を楽しもう」～

人の意見をしっかり聞き、自分の考えをはっきり表明する。

最初の考えに凝り固まらず、納得できる意見に気持ちを変えていく柔軟性を持つ。

発言の内容が、話題から外れないように気をつける。

話し手がどういう意図で発言しているのか、よく聞き取りながら参加する。

立場をはっきりさせて、分かりやすく伝わるように発言する。

これらの一つ一つが、討論例の中の具体的な言葉と、どのように対応しているのか、学習活動例をもう一度読んで該当箇所に線を引かせるなどして、じっくりと考えさせましょう。そうすることで、「話すこと・聞くこと」の学習のポイントを論理的に考え、理解することができます。留意点が十分に示されていない場合は、学習活動例をもとに、生徒自身に考えさせたり、教師が補足したりする必要があります。このような学習は、ややもすると軽く扱われがちだった部分です。「課題に取り組みさせる」ことに十分な時間を確保しようという気持ちが強いと、学習活動例や、学習にあたっての留意点の理解は、できるだけ簡略に済ませようということになるからです。しかし、「話すこと・聞くこと」の指導事項をしっかりと押さえるという意味では、最も重要なところでは、十分に時間をかけて、丁寧に行うようにしたいものです。また、次時以降も必要に応じて生徒が覚えているかどうか確認するなどして、繰り返し扱うようにすると効果的です。

#### 「引用して話す」ようにさせましょう

話し合い活動では、自分勝手な話にならないようにするために、「相手の発言内容を踏まえて話す」ことが大切です。相手の意図を確認したり、共通の話題に即して話したりするために、発言した言葉そのものや、主な発言内容を「引用して話す」ように心がけさせる必要があります。

次に示すのは、「討論を楽しもう」の学習活動例をもとに、「『6人の発言内容』を『留意点』から考えてみよう」という題目で話し合いをしている様子です。

「6人の発言内容」を「留意点」から考えてみよう

生徒1 については、清水さんと横山さんの二人が、「自分の考えをはっきり表明」していると思います。

教師 具体的にどういうことですか。

生徒1 例えば、清水さんは、はじめの提案で、「わたしたちのクラスにも、言葉の使い方が悪いのにそれに気付かず、人を傷つけている人がいると思ったので提案しました。」と言っています。自分の考えをはっきりと表明していると思います。

教師 なるほど。では、 についてはどうですか。

生徒2 「納得できる意見に気持ちを変えていく柔軟性を持つ」ということについては、だれもあてはまらないのではないのでしょうか。

教師 どうしてだと思えますか。

生徒2 みんな自己主張が強いからだと思います。特に、根本さんという人は、「そんなこと気にしなきゃいいと思うけど。」と言って、清水さんの気持ちを分かってあげようとしていません。

生徒3 そういうこともあるかもしれないけれど、話し合いが始まったばかりで、まだ十分に自分の考えを述べきれないからではないかと思います。もう少し話し合いが進んだならば、きっと、大川さんは気持ちを少し変えるかもしれません。だって、「目上の人に言うのはいけない気もするけれど」と言っているからです。

教師 よく気が付きましたね。みなさんがこのあと実際に話し合うときにも、このについては、よく考えてほしい点なのです。「最初の考えに凝り固まらず」ということはとても難しいのです。でも、みなさんのように、発言者の言葉を引用しながら、自分の考えを述べるように努力すると、の「話し手がどういう意図で発言しているのか」が分かってきます。相手の立場を尊重して聞こうとする態度が身に付いてくると、「納得できる意見」を受け入れる態度も育ってくるのです。

この例に登場する3人の生徒は、それぞれ、教材本文の生徒の会話や留意点を引用しながら自分の考えを述べています。このように、「引用して話す」ことが習慣化されるように、学習訓練をしていくと効果的です。そのためには、このような具体的な例をプリントして生徒に示したり、教師が実演をしてみせたりして、具体的に指導するとよいと思われます。「聞き取ったことを引用して話す」ことは、相手の立場や考えを尊重することであり、話し合いを円滑に進めていくうえでの有効な手だてとなります。

## 2 「話すこと・聞くこと」以外でも指導しましょう

「話すこと・聞くこと」の学習指導だけに限らず、発言したり話し合ったりするにあたり、「話し手として必要な情報は何か」を吟味する機会を設けましょう。特に、グループ学習では、「何をどう話し合うのか」が曖昧なままに話し合いを始めると、目的のない話し合いに陥ってしまうこともあるため、注意が必要です。ここでは、目的のある話し合いにするために、「何をどう話し合うのか」を明確に示す例を示します。

### 共通の話題に即して話し合わせましょう

「食感のオノマトペ」（三省堂1年生）では、課題の例示の中に、「自分の好きな食べ物について、オノマトペを用いずにそのおいしさを説明してみよう。」というものがあります。この課題は、「食感のオノマトペ」で筆者が述べていることを生徒の生活体験をもとに実感させるという意図によるものです。したがって、この課題に取り組む場合は、次の手順で行うことになるでしょう。

自分の好きな食べ物について、オノマトペを用いずにそのおいしさを説明する。

自分の好きな食べ物について、オノマトペを用いてそのおいしさを説明する。

ととの違いについて、「筆者が述べていること」を引用して意見や感想を述べる。

特に、 で、自分の意見や感想を述べるにあたり、「筆者が述べていること」を引用して述べることで、自分勝手に話すのではなく、「共通の話題に即して話すこと」を具体的に指導することができます。

「話し合いのポイント」を確認して話し合わせましょう

グループ学習などによる「話し合い」学習で、学習の目的や方法を説明するにあたっては、「何をどう話し合うのか」を明確にするために、「話し合いのポイント」を確認することが大切です。次に、その一例を示します。

文章表現を引用して伝え合わせよう

「対話を考える」(三省堂・2年生・3時間扱い)

\*ねらい 物事を説明する視点の違いをとらえ、要旨をまとめるとともに、生活の中の対話の意義とあり方について考えを深める。

\*学習活動計画

- ・第1時 全文を通読し、筆者の論理展開の仕方についてペアで話し合う。
- ・第2・3時 「会話」と「対話」についての筆者の主張と根拠をおさえ、自分の生活における「会話」と「対話」を振り返って、意見を交換する。

\*学習課題の提示(第2時のはじめに)

筆者は、「日本人は、会話は得意だが対話は苦手」だという内容の意見を述べ、その根拠も示しています。実は、先生には、どうにも理解できない根拠が、その中に一つあるのです。確かに対話が苦手な人も少なくないかもしれませんが、「日本人は、対話が苦手です」と言い切れるのだろうかという疑問なのです。みなさんは、どうでしょうか。

まず、筆者の根拠をペアで探し、ノートに箇条書きで整理してみましょう。次に、筆者が示している根拠の一つ一つについて、納得できるものかどうか、ペアで話してみましょう。そのとき、自分自身の「会話」や「対話」について、生活を振り返ってよく考えてみてください。ペアで考えたあとで、全体で意見を交換してみましょう。そのとき、先生の考えも詳しく述べたいと思います。では、話し合いのポイントを二つ確認して、グループに分かれましょう。学習計画表を出してください。「話し合いのポイント」を確認しましょう。

学習計画表に示された「話し合いのポイント」(本時)

筆者の根拠を引用して話し合おう。

自分自身の「会話」や「対話」について、今までの生活における具体的な例を思い出し、筆者の根拠についてどう思うか話し合おう。

このように、「話し合いのポイント」を明確にして話し合うことで、目的のある話し合い学習にすることができます。授業の終末に、もう一度、「話し合いのポイント」を確認し、そのポイントから自分たちの話し合い活動を振り返らせると一層効果的です。

平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて作成した「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」も、今回が3回シリーズの最終となります。第1回(H17.5、冊子)、第2回(H17.9、

リーフレット)とともにご活用ください。